

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○1月20日～

今週は20日の月曜が米国の祝日(キング牧師記念日)ですが大統領就任式は行われます。

いよいよトランプ政権がスタートしますが政策によってはマーケットに大きな波乱が起こる可能性もあるためニュースに注意しながらトレードしていく必要があります。

特に、各国への関税がどうなるのか不明ですが、具体的な話が出てくれば通貨にも影響が出るかもしれません。

そして、今週は日本でも注目イベントの日銀金融政策決定会合があります。

利上げに踏み切る可能性もあるため為替が大きく動くかもしれません、

12月までは利上げは春までないという予想が多かったのですが、今年に入って植田・日銀総裁や氷見野・日銀副総裁が利上げに前向きな発言をしていることから、トランプ政権がスタートして波乱がなければ利上げに踏み切るとの予想も強まっています。

利上げとなれば円高に動くリスクがありますが、利上げにならなかった場合、逆に円安が進む可能性もあるため注意がいります。

先週は円高、日本株安が進みましたが週末にかけて少し底打ちしたようにも見えるため週明けから円安、日本株安の動きに転じるかがポイントになります。

テクニカルで見ると日経平均は高値圏でのレンジ相場のような狭い範囲での上下動を繰り返しています。

そして、ドル／円相場は160円を前に高値圏でもみあっているような動きに見えます。

もう一度、円安・株高の動きになるのかトレンド転換して円高、株安の動きになっていくのか今年前半の動きは長期的に見ても重要です。

トランプ政権の政策と日銀の利上げを見極めないと予想が難しい状況です。

ドル／円とクロス円だけを見ているとトレンドがわかりにくいですがユーロ／ドル、ポンド／ドル、豪ドル／ドル、NZドル／ドルなどを見ると秋以降、月足でも下落が続き、米ドル高相場ということがよくわかります。

このドル高相場がいつまで継続するかも見ておきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週は一時155円あたりまで円高が進みましたが週末になんとか持ち直し、156円台前半でマーケットが終わっています。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

155円を割り込まない限り、じわじわと戻してくる可能性があります。

上値は156.4円を超えれば157円あたりに抵抗があります。

ここも超えれば158.2円を目指す動きに。

158.2円を超えれば158.8円あたりが視野に入ってきます。

下値は155円を割り込むと153円台まで下落するリスクがあるので注意。

<気になるクロス円>

クロス円も先週は下げているペアが多く、週末には底打ちの兆しが見られますが、週足で陰線が続いているペアは注意がいります。

週明けは上昇しても週後半は上値が重くなってくる可能性があるので、利益が出ている場合は早めに利益確定が安全かもしれません。

週足や月足が陰線ということは、大きな流れが下向きとなっているため上昇の勢いは弱く、悪材料には大きく反応して下がります。

今週は、カナダドルなどはトランプ大統領が名指しでカナダに不利な関税をかけるなどの報道が出れば売られやすくなるなど米国に振り回される可能性もあります。

また、日銀が利上げを見送ればクロス円も大きく上昇するかもしれません。

リスク管理には気をつけながら慎重にトレードしていきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では11月機械受注、12月貿易統計、日銀・金融政策決定会合、日銀展望レポート、12月全国消費者物価指数、植田・日銀総裁定例会見などがあります。

米国では12月景気先行指標総合指数、前週分新規失業保険申請件数、1月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、1月ミシガン大学消費者信頼感指数、12月中古住宅販売件数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで1月ZEW景況感調査、1月製造業・サービス業PMI(速報値)、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言などがあります。

ほかには、カナダで12月消費者物価指数、ニュージーランドで10-12月期消費者物価指数、トルコで政策金利の発表などがあります。